

指定管理者による公の施設の管理状況評価（令和7年度分）

施設	名 称	栃木市大平児童館
	所 在 地	栃木市大平町蔵井2007-1
	施設内容	児童厚生施設
指定管理者	名 称	学校法人 しずわでら学園
	所 在 地	栃木市岩舟町静和1151-4
	主な業務内容	認定こども園しずわでら幼稚園、認定こども園ふじおか幼稚園 子育て支援センターもりのカフェ の運営

（１）平等利用の確保とサービス向上の取組み

評価要素	①	施設の設置目的や特性に基づいた施設運営の基本方針が明文化され、職員が適切に理解しているか					
	②	施設予約や利用方法等について、市民の誰もが利用しやすい利便性と平等性確保の配慮がなされているか					
	③	アンケート調査等により、利用者等の意見を把握し、運営に反映させる取組みを行っているか					
	④	利用者等からの苦情や意見などに対し、適切な取組みを行っているか					
管理状況評価指標	指標名			計画値		実績値	
	子育て支援室利用者数			3,700人		4,088人	
	利用者アンケート数			100件		145件	
	利用者意見反映数			1件		1件	
	イベント参加者アンケート数			260件		415件	
	イベント参加者満足率			80%		100%	
	業務改善数			2件		2件	
評価	配点	第1次評価（指定管理者評価）			第2次評価（施設所管課評価）		
		評価ランク	評価指数	評価点	評価ランク	評価指数	評価点
	25	I	1.0	25	I	1.0	25
指定管理者コメント	①児童福祉法第35条第3項に基づく施設であることを念頭に置き、児童を健全に育成することを目標として施設運営方針を定めました。また、事務室に掲示し職員が常に意識できるよう努めました。 ②施設の案内を玄関や各部屋に表示、またホームページやSNS等でも積極的に案内することで、誰もが利用しやすいようにしました。 ③利用者満足度向上のため、夏休み中の利用者アンケート調査を145件、また、各種イベントごとの参加者アンケート調査を415件実施しました。調査内容により2件の要望を導入しました。 ④意見箱を設置、また苦情申出窓口を設置し利用者の意見を把握するよう努めました。苦情処理の基本的なマニュアルを作成し、苦情があった場合スムーズに対応できるよう努めました。						
施設所管課コメント	・施設の案内をSNS等も活用しながら発信しており、利用者層に沿った工夫を行っている。誰もが利用しやすい環境整備に努めていることから、市内児童館でもイベント参加者数が多い状況にあると評価できる。 ・計画値を上回る数のアンケートを実施していることや、イベント参加者の高い満足率から、利用者の声を聴き運営に反映させる姿勢を持ち、また実行できていると評価できる。 ・今後も継続して利用者の目線に立った施設運営を行ってほしい。						

(2) 施設の効用を最大限に発揮する取組み						
評価要素	①	施設の設置目的に基づいた事業計画通りに管理運営をしているか				
	②	広報活動等（広報紙、ケーブルTV、ホームページ、SNS等）による新規利用者の増加に向けた、効果的な取組みを行っているか				
	③	開館時間の延長及び新規事業等による新規利用者の増加に向けた、効果的な取組みを行っているか				
	④	地域住民や関係団体等との連携や協働による事業等、利用者や地域住民の満足度を高める取組みを行っているか				
管理状況評価指標	指標名			計画値		実績値
	利用者数			15,800人		17,885人
	ホームページ更新数			12回		15回
	メディア掲載件数			5件		7件
	SNS掲載件数			250件		623件
	新規事業数			3事業		6事業
	協働事業参加者数			延べ20人		延べ60人
評価	配点	第1次評価（指定管理者評価）			第2次評価（施設所管課評価）	
		評価ランク	評価指数	評価点	評価ランク	評価指数
	20	I	1.0	20	I	1.0
指定管理者コメント	①年間の事業計画に基づいて事業を実施しました。講師を招いての事業は、講師の方の体調不良等の都合で計2回の事業が中止となりました。 ②毎月発行のじどうかんだよりに加え、ホームページ・広報誌・ケーブルテレビ・X・Instagramなどを積極的に活用し、幅広い周知を図りました。特にInstagramでの周知に力を入れ、SNS掲載数は計画値を大きく上回り、新規フォロワー数も198件増となりました。イベント参加者へのアンケート集計の中でも、イベントをInstagramで知ったという声が増えてきています。 ③児童館条例で定められている開館時間を延長することで、施設の利便性を高め利用者の拡大を図りました。新規利用者の増加に向け、新規事業としてママ向けに「ビューティーイベント」「ママヨガ」「ネイル」のイベントを開催しました。また、光るホタルを観察する「ホタル鑑賞会」やホタルの成長を観察する「ホタル観察会」の開催では、幅広い年齢の子どもたちにホタルを通して命の尊さ・自然の大切さを伝えました。 ④秋の一大イベント「こどもフェスティバル」の他、親子教室のおまつりや「まるごと児童館まつり」のブースなど、地域住民の方や学生に協力をしていただき開催しました。					
施設所管課コメント	・利用者数は継続して増加しており、情報発信等で新規利用者の取組みに注力した結果が現れている。特にSNS掲載は年間を通して数多くの発信を行っている。 ・開館時間の延長を継続して実施している【条例に定める時間 8:30～17:00に対して、8:30～17:30まで（7・8月は18:00まで）】。今後も、職員の勤務環境に配慮しながらも利用者支援に取り組んでもらいたい。 ・新規事業実施や、地域と連携した協同事業にも意欲的に取り組んでいた。今後も大平児童館の強みを活かして利用者拡大を図ると共に、地域に開かれた児童館運営に努めてもらいたい。					

(3) 施設経費の削減の取組み						
評価要素	①	指定管理料、利用料金等の収支手続について、適切で透明性の高い管理をしているか				
	②	サービスの質を確保した経費削減の取組みを行っているか				
	③	清掃、警備、保守点検など、業務の一部委託等をする場合、複数業者からの見積合わせなど、経費削減等に考慮して適切に行っているか				
	④	施設、備品等の管理について、適切に維持管理し、省エネ、省資源、環境配慮物品の購入など環境への配慮を適切に行っているか				
管理状況評価指標	指標名			計画値	実績値	
	事業費削減額			21,775円	△106,392円	
	事業費削減率			1%	-4.80%	
	見積合わせ実施数			5件	5件	
	施設修繕数			2件	5件	
	備品更新数			1件	2件	
評価	配点	第1次評価（指定管理者評価）			第2次評価（施設所管課評価）	
		評価ランク	評価指数	評価点	評価ランク	評価指数
	15	Ⅲ	0.6	9	Ⅲ	0.6
指定管理者コメント	①指定管理業務にかかる収支について専用口座を設け、出納責任者を2名配置し確認体制を強化することにより、正確な管理を行いました。 ②リサイクル品の使用によるイベント消耗品の削減、光熱水費の効率的な利用に努め、イベントや施設の充実を図りました。 ③業務委託に関して、経費削減やサービス向上等を考慮し、委託業者との信頼関係も築くよう努めました。 ④安心・安全に考慮し、危険箇所の修繕や備品の交換等を行いました。また、エアコンの清掃を職員や業者にて定期的に行い、温度管理を徹底することで、省エネにも力を入れました。備品は、電子レンジとベビースケールの購入、修繕は、トイレのセンサーライト設置作業、ガラス交換作業、トイレの水栓と洗面台の水漏れ修理を行いました。					
施設所管課コメント	・収支管理については、引き続き複数名での管理体制を維持するよう努めてもらいたい。 ・イベント消耗品にリサイクル品を使用するなど、経費を削減をしながらも利用者サービスの質を確保する取組みが行われている。 ・経費削減に取り組みながらも、利用者のために必要な修繕は積極的に実施しているものと考えられる。開設から年数の経過している施設であるため、所管課としても随時施設情報を共有しながら運営していきたい。					

(4) 施設の管理を安定して行うための取組み						
評価要素	①	施設の適正管理に必要な職員の配置及び管理運営体制が確保されているか				
	②	職員の望ましい勤務形態及び育成指導、研修等が十分に確保されているか				
	③	職員の福利厚生は充実しているか				
	④	団体の財政状況等は健全であるか <別紙参照>				
	⑤	各種税金や社会保険料等は適切に納められているか				
管理状況評価指標	指標名			計画値	実績値	
	人員配置数			5人	5人	
	研修会開催数			2回	2回	
	研修会参加回数			3回	13回	
	研修会参加人数			延べ5人	延べ21人	
	経常収支比率			95%	113%	
評価	配点	第1次評価（指定管理者評価）			第2次評価（施設所管課評価）	
		評価ランク	評価指数	評価点	評価ランク	評価指数
	20	Ⅱ	0.8	16	Ⅱ	0.8
指定管理者コメント	①栃木市児童館条例並びに基本協定書に基づき、施設の運営に必要な職員配置を行いました。総括責任者として館長を1名配置、業務従事者すべての者が児童厚生員（保育士、幼稚園教諭等）の資格を有し、常に2名以上の人数配置をしました。 ②職員研修会を実施、また児童館連絡協議会主催の研修会等にも進んで参加しました。 ③④健康保険料・厚生年金保険は私立学校共済保険に加入、また各種税金も適切に納めました。 ⑤別紙にて					
施設所管課コメント	・内外の研修に積極的に参加した実績があり、職員の育成や能力向上に取り組んでいることが伺える。 ・5名の有資格者が従事していることは、他の児童館と比較しても充実した人員配置であり高く評価できる。 ・管理者が意欲的に取り組んでいる結果もあり利用者数が増加しているが、利用者が増えた中でも安全で適正な施設運営ができるよう、引き続き職員の育成指導等に努めてもらいたい。					

(5) 施設の安全対策、危機管理体制の取組み						
評価要素	①	日常の安全点検及び法定点検等の安全対策を行っているか				
	②	緊急時の危機管理体制等が確立されているか				
	③	避難訓練や防災訓練を適切に行っているか				
	④	具体的な個人情報保護対策を行っているか				
管理状況評価指標	指標名			計画値	実績値	
	安全定期点検実施回数			12回	12回	
	事故発生件数			0件	0件	
	消防訓練実施回数			12回	12回	
	消防訓練参加人数			50人	91人	
	水害に対する訓練実施回数			2回	2回	
評価	配点	第1次評価（指定管理者評価）			第2次評価（施設所管課評価）	
		評価ランク	評価指数	評価点	評価ランク	評価指数
	20	Ⅱ	0.8	16	Ⅱ	0.8
指定管理者コメント	①日々の安全点検に加え、月に1度定期点検を実施、また年に1度専門業者に外の遊具の安全点検を依頼し、修繕を適宜実施しました。また、消防設備などの法定点検も実施しました。 ②安全管理マニュアルを各場面ごとに作成し、事務所に保管するとともに、職員に配布し、話し合いの時間を設け、常に的確な対応ができるよう努めました。 ③消防の総合訓練の他、消火器等の点検を毎月実施、水害に対する訓練も年に2回実施し、職員や利用者の防災意識を高めるものとなりました。 ④個人情報保護マニュアルに基づき、適切に管理しました。					
施設所管課コメント	・施設の安全対策、危機管理については訓練報告等を受け、適切に行われていた。年々利用者数が増加している中にもあっても事故なく運営できていることは、日頃から安全対策に対して意識を高く持っていた結果と評価できる。 ・消防署と協力した訓練を実施しており、職員や利用者により実践的な意識づけを行っていた。今後も、有事の際に有効となるような取組みを継続してもらいたい。 ・施設所在地から想定される水害に対する訓練など、今後も地域の実情に沿った防災対策を意識してもらいたい。					

評価結果	配点	第1次評価点 (指定管理者評価)	第2次評価点 (施設所管課評価)	第3次評価点 (選定委員会評価)
(1) 平等利用の確保とサービス向上の取組み	25	25	25	24.7
(2) 施設の効用を最大限に発揮する取組み	20	20	20	19.7
(3) 施設経費の削減の取組み	15	9	9	10.4
(4) 施設の管理を安定して行うための取組み	20	16	16	16.0
(5) 施設の安全対策、危機管理体制の取組み	20	16	16	15.7
評価点合計	100	86	86	86.5
総合評価		A (優)	A (優)	A (優)

第3次評価（選定委員会評価）

選定委員会コメント

- ・利用者アンケートから保護者とスタッフのコミュニケーションが良質な施設運営につながっている点は評価したい。
- ・開館時間の延長やイベント開催などによって、利用者数・アンケート数とも計画値を上回り、満足率100%につながった点は評価したい。
- ・積極的にSNSでの情報発信を行っており、掲載情報への配慮等も含め他の施設の模範となる取組をしている点は大いに評価したい。
- ・資格を保有している職員を雇用し充実した人員配置をしており、また研修会への積極的な参加により職員の育成に取り組んでいる点は評価したい。
- ・子どもたちの安全な利用のために、施設や遊具のこまめな安全点検や修繕を今後も継続してほしい。

(4) 施設の管理を安定して行うための取組み

《 別 紙 》

⑤ 団体の財政状況等は健全であるか

直近3カ年の情報を記入してください。

決算年次	令和5年3月期	令和6年3月期	令和7年3月期
資産総額	1,333,192,277	1,381,268,094	1,452,544,040
売上高	540,228,943	558,593,010	558,761,339
経常利益	51,781,401	60,562,555	64,757,956
当期利益	51,781,401	60,582,536	65,232,435
経常収支比率	110.6%	125.0%	113.1%

※ 経常収支比率について

本指標は、会社の資金繰りの実態を示す指標です。

この数値が100%未満であると銀行借入などをしなければ営業活動ができなくなるといわれているものであり、経常損失が生じていることを意味します。

決算年次	令和5年3月期	令和6年3月期	令和7年3月期
経常費用	488,543,240	498,137,681	493,528,904
経常収益	540,324,641	622,718,288	558,286,860
経常収支比率	110.59%	125.00%	113.12%

○経常収益（営業収益＋営業外収益）÷経常費用（営業費用＋営業外費用）×100で求めます。

指定管理者コメント

- ・決算は令和6年度末までのものになります。
- ・経常収益を伸ばすことができ、経常収支比率は上昇傾向にあります。伸び率を維持できるよう、引き続きコスト削減と収入源確保に取り組んでいきます。